



郵政産業 ユニオン

発行所 〒170-0012 東京都豊島区上池袋2-34-2
TEL 03(5974)0816 FAX 03(5974)0861
http://www.piwu.org mail@piwu.org
発行責任者 廣岡 元徳

〈購読料〉1部250円(送料共) 年間2500円
郵便振替口座 00120-5-120809
(組合員の購読料は組合費の中に含む)

2社統合にともない雇用調整を画策

継続雇用させるとりくみを

緊急要求書を提出

4月27日に改正郵政民営化法が成立したことを受け、郵便事業会社と郵便局会社は10月1日に統合され、新たに日本郵便会社が発足する。この結果、郵政グループは4社体制となる。この会社再編は、とりわけ期間雇用社員の雇用継続に大きな影響を与えることが予測される。そこで本部は、関連会社に対して別表の「2社統合に伴う緊急要求書」を提出した。安定したサービスの提供を行うためにも、十分な労働力確保が求められる。

労働者に転嫁するな

郵便事業会社は、日通との宅配統合の失敗により、大きな「赤字」を背負い込むことになりました。その結果は、正社員のボーナスカットや期間雇用社員への勤務日数や勤務時間の削減として、労働者に転嫁されています。さらには会社は、「郵便再生に向けて」H23年度からH27年度までの5カ年計画を作成し、具体的に実施してきています。それらの計画は、新人事制度の

導入とも関連し、郵便内務・外務の今までの作業のあり方を一変させる大「合理化」となっています。

本部は、こうした中期計画に対しては別途要求書を提出し、交渉を行っていく予定です。

しかし問題は、こうした時期を見逃さず、会社は、過去徹底した要員削減を行ってきたことも事実です。こうしたやり方を許すことはできません。とりわけ、期間雇用社員の雇

便乗止めは

やめよ

これらの「合理化」

計画の途上に、10月1日の2社統合が重なる形となりました。

2社で行っていた業務運行が1社に集約されるわけですから、当然、重なる要員については削減の対象となる



統合にともない昼間のゆうゆう窓口も削減の対象に

2社統合に伴う緊急要求書

改正民営化法の成立による、郵便事業(株)会社と郵便局(株)会社の会社統合は、これまで以上の利用者サービス確保のために万全の体制で望まなければならない。そのためには、利用者へのお知らせはもちろん、充分な社員への周知・訓練等が必要であり、何よりもサービス提供のための労働力の確保が大前提となっている。

現在、多くの支店・局において要員不足は明らかであり、郵政産業労働者ユニオンとして時間外労働依存の業務運行の実態、賃金不払い労働、36協定時間を越える時間外労働の問題を指摘し改善を求めてきたが、いまだに改善されていない実態となっている。

10月1日の2社統合を前に、以下の要求書を提出するので速やかに回答されたい

記

- 2社統合による10月1日以降の安定した業務運行を確保するため、万全な要員措置を行なうこと。
- 期間雇用社員の雇用確保について
 - (1) 会社統合に伴う雇止めは行わないこと
 - (2) 原則、全員継続雇用とすること
 - (3) 勤務日数・時間の削減は行わないこと
 - (4) 変更をする場合は、その考え方について明らかにすること
- 会社統合に伴う労働協約の改定内容について早急に明らかにすること
 - (1) 労使委員会等の設置や窓口交渉のあり方等で変更のある部分について明らかにすること
 - (2) 冬期休暇日数及び年末年始休暇期間、代替休暇において2社間で差異がある部分について、見直しがあるのかどうか明らかにすること
 - (3) 期間雇用社員の基本月額にかかわる加算回数については、現行郵便局会社における上限回数とすること
 - (4) 期間雇用社員の基本月額にかかわる年末年始勤務手当については、現行郵便局会社と同様とすること
- 郵便窓口・ゆうゆう窓口の一本化について
 - (1) 実施予定拠点52局の要員措置計画を明らかにすること
 - (2) 実施予定拠点52局以外での実施スケジュールを明らかにすること
 - (3) 窓口一本化の完成時期について明らかにすること
- コールセンター及び共通事務における安易な減員は行わないこと
- その他、会社統合に伴う10月1日以降の制度変更がある場合は、その内容について詳細に明らかにすること
- 2社統合に伴う新会社の組織形態、社内規程、お客様対応、業務・オペレーション等について、業務研究会等を開催し混乱がないよう万全を期すこと

以上

今回の緊急要求書は、こうした会社対応に対し、一定の歯止めを要求したものとされています。業務混乱を避けるための万全な要員措置を求めつつ、期間雇用社員の継続雇用措置、勤務日数・時間の便乗削減は行わないことなどを求めています。さらに、郵便事業会社と郵便局会社で異なる期間雇用社員の賃金や手当などについても、保障措置が高い郵便局会社に足並みをそろえることを求めています。また、2社統合によって、労使対応が変わる場合のその改定内容についても明らかにすることを求めています。現場段階でも、想定される事態に対応することが必要です。安易な雇止めには、きっぱり反対していきます。

近畿・細

ポスト

梅雨明け以降の西日本のはじめは、マゼミの合唱から始まる。道路沿いの並木や公園を取り囲む緑豊かな木々の樹上から発せられる、種を護るべく生命の雄叫びは真夏の象徴だ。真夏と云えば怪談か。背筋も凍らん怖い話は納涼に役買ってくれるが、度を超すと神経過敏症を患い、眠りを妨げる。しかしながら7月後半から8月に渡り、睡眠不足が為、目の下に隈を作るに至った理由は、『百物語』の所為にあらず。一日の仕事が終わる頃、倫敦では社会が動き出す。五輪競技も、同様だ。翌朝を思うに眠らねばと判つてはいるが、白熱のゲームに目はTV画面に釘付けて、気付けば三つ時の日々。昼間の力プセルホテルの利用率が上がり、ドリンク剤の売り上げが伸びたのも頷ける。五輪中継の合間に入るCMに、『銀は金より良いと書く』なる金言。されば、銅も「金と同じ」だ。要するに、メタリストは皆、時の人なのだ。身体を鍛え、心を磨き、4年毎に迎えるアスリートたちの五輪。酔生夢死が如き人生を送らぬ為の手立てを、オリピックは、我々にも教えてくれる。